昭和62年度

大分県内遺跡詳細分布調査概報7

多志田遺跡	日向塚遺跡
跡田遺跡	長野地区
居屋敷遺跡	栢ノ木遺跡
安心院恒松地区条里跡	小迫辻原遺跡
本篠遺跡	宮ノ原遺跡C地区
横枕遺跡	日高地区

昭和63年3月

大分県教育委員会

例　　言

1、本書は、大分県教育委員会が昭和62年度国庫補助金を得て実施した農業基盤整備事業に伴う事前の試掘調査の概要報告書である。

2、調査体制は次のとおりである。

調査主体　　大分県教育委員会

調査委員　　賀川光夫（別府大学長・大分県文化財保護審議会委員）
後藤昭六（大分県教育庁管理部文化課長）
徳丸欽也（同　参事）
後藤宗俊（同　主幹）

調査主任　　清水宗昭（同　埋蔵文化財第1係長）

調査員　　坂本嘉弘（同　主任）
牧尾義則（同　主任）
高橋　徹（同　主任）
宮内克己（同　主任）
高橋信武（同　主任）
栗田勝弘（同　主任）
西　哲弘（同　主任）
水松みゆき（同　嘱託）
綿貫俊一（同　嘱託）
栗焼憲児（中津市教育委員会主事）
土居和幸（日田市立博物館）
友岡信彦（日田市立博物館）

3、調査の実施にあたっては、大分県農政部、本耶馬渓町教育委員会、中津市教育委員会、安心院町教育委員会、山香町教育委員会、庄内町教育委員会、直入町教育委員会、日田市立博物館等の協力を得た。記して感謝の意を表したい。

4、本書の執筆は各調査担当者が分担し、編集は清水があたった。

5、遺物の整理及び整図は調査員のほか、田北節子、安部りつ子があたった。

目　　次

Ⅰ　調査の経緯……1
Ⅱ　分布調査の概要……7
Ⅲ　試掘調査の概要……9
　1　多志田遺跡……9
　2　跡田遺跡……9
　3　居屋敷遺跡……11
　4　安心院恒松地区条里跡……12
　5　本篠遺跡……15
　6　横枕遺跡……16
　7　日向塚遺跡……19
　8　長野地区……21
　9　栢ノ木遺跡……22
　10　小迫辻原遺跡……25
　11　宮ノ原遺跡Ｃ地区……27
　12　日高地区……28
Ⅳ　まとめ……29

Ⅰ　調査の経緯

昭和62年度の事業については、県農政部との事前協議にもとづいて実施した。調査対象地は、昭和62年度実施予定の農業基盤整備事業関係の事業予定を検討し、(1)周知遺跡にかかるもの、(2)遺跡の可能性のあるもの、(3)その他に分けた。今年度対象となったものは、県下168ケ所に及び、全く遺跡の可能性のないものを除き分布調査を実施した。

分布調査は5月～7月にかけて実施し、とくに周知遺跡にかかる等の問題のある地区については、地元教育委員会及び農政担当部局と現地協議を行った。

分布調査の結果、さらに、(1)周知遺跡にかかる地区、(2)遺跡の所在が確認された地区、(3)地形等から遺跡の可能性がある地区、(4)特に問題のない地区、に分け、農政部局にその取扱いついて通知した。この結果をふまえ、原則として(1)、(2)については試掘調査を実施するようにし、事前に遺跡の範囲確認を行うようにした。(3)については、試掘もしくは立合い調査を実施した。

主要な試掘調査は次のとおりである。

多志田遺跡	下毛郡本耶馬溪町多志田工区（県営圃場整備）
跡田遺跡	下毛郡本耶馬溪町跡田工区（県営圃場整備）
居屋敷遺跡	中津市洞ノ上工区（団体営）
安心院恒松地区条里跡	宇佐郡安心院町新貝川工区（県営圃場整備）
本篠遺跡	速見郡山香町山浦工区（県営圃場整備）
横枕遺跡	直入郡直入町長湯工区（県営圃場整備）
日向塚遺跡	直入郡直入町長湯工区（県営圃場整備）
長野地区	直入郡直入郡直入郡長湯工区（県営圃場整備）
栢ノ木遺跡	大分郡庄内町阿蘇野工区（県営圃場整備）
小迫辻原遺跡	日田市辻原地区地力増進事業
宮ノ原遺跡Ｃ地区	日田市宮ノ原地区
日高地区	日田地区広域営農団地農道整備事業

これら遺跡の中で、栢ノ木地区、長野地区、日高地区を除いては、遺構、遺物包含層等が確認されたため、その取扱いについて農政部局と協議を行った。その結果、安心院恒松条里跡Ｂ地点、横枕遺跡、日向塚遺跡、について本調査を実施することにし、その他については、工法の変更による保存を図ることにした。（清水）

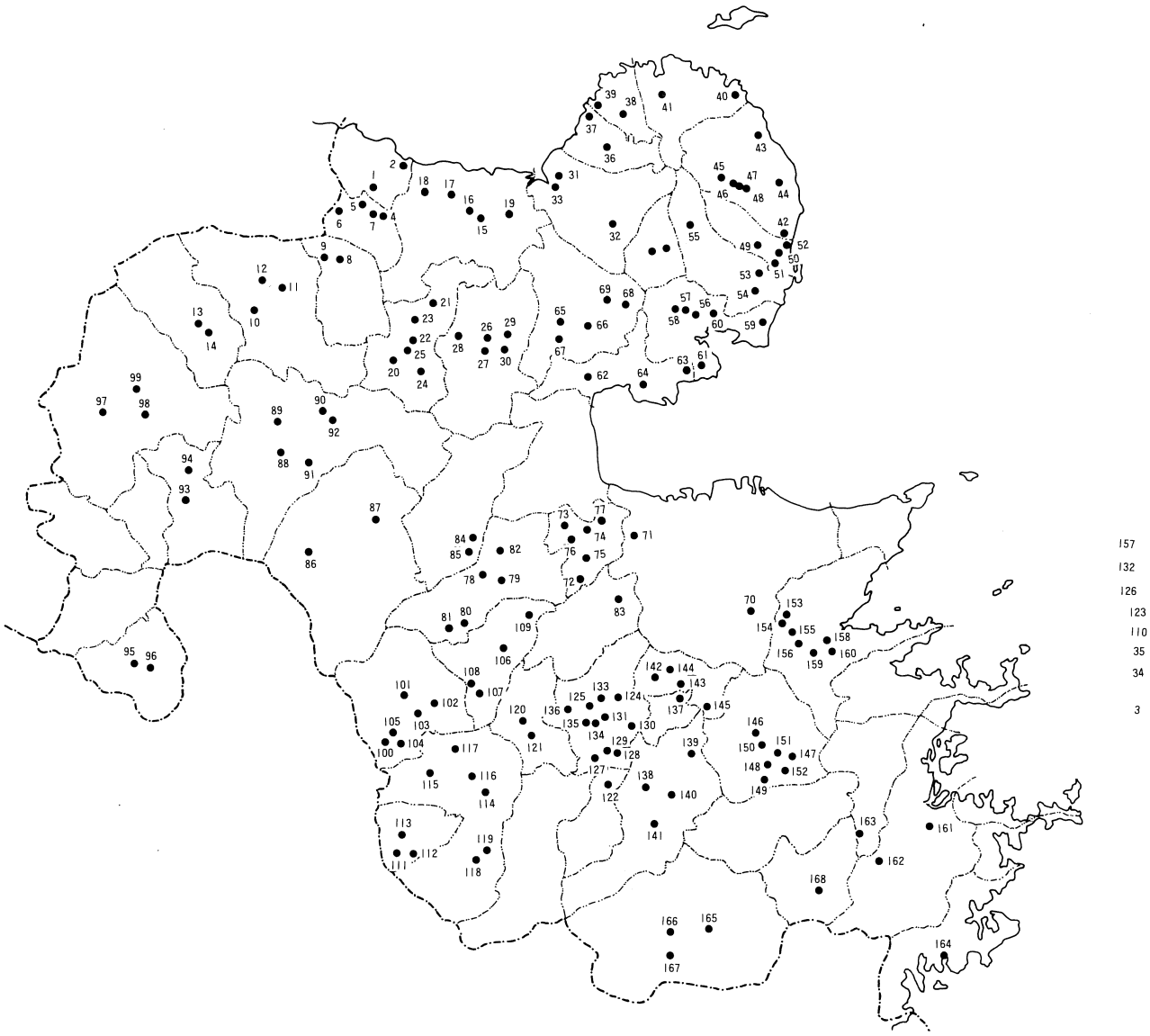
昭和62年度　農業関係開発事業に伴う埋蔵文化財分布調査地区一覧

番号	市町村名	事業名	地区名	工区名	面積(ha)
1	中津市	団体営	中津	洞ノ上工区	4.6
2	中津市	小規模排水対策事業		鍋島西部工区	
3	中津市	〃		赤道工区	9.7
4	三光村	県営圃場整備	八面山東部	第2・3換地工区	7.0
5	三光村	〃	八面山中部	第1工区	8.0
6	三光村	農村総合整備モデル事業		鮎帰工区	2.4
7	三光村	農地一体開発整備パイロット事業		西秣工区	4.7
8	本耶馬溪町	県営圃場整備	本耶馬溪中部	跡田工区	8.0
9	本耶馬溪町	団体営		多志田工区	2.2
10	耶馬溪町	〃		樋山路工区	2.5
11	耶馬溪町	小規模排水対策事業		柾木工区	9.6
12	耶馬溪町	県営圃場整備	耶馬溪中部	中福土地工区	3.0
13	山国町	〃	山国	草本工区	5.0
14	山国町	農地開発事業		山国工区	2.5
15	宇佐市	広域農道事業		高森東工区	340m
16	宇佐市	〃		宇佐北工区	580m
17	宇佐市	〃		下敷田工区	280m
18	宇佐市	地域改善事業		富山第4工区	8.5
19	宇佐市	〃		北宇佐第12工区	3.8
20	院内町	県営圃場整備	院内南部	第1－5工区	8.0
21	院内町	小規模排水対策事業		下船木工区	8.3
22	院内町	〃		五名工区	8.4
23	院内町	〃		田所工区	7.3
24	院内町	地域改善事業		東第4工区	3.6
25	院内町	〃		上納持工区	50.6
26	安心院町	県営圃場整備	安心院	松本川1－8工区	3.2
27	安心院町	〃	〃	松本川2－7工区	3.3
28	安心院町	〃	新貝川	恒松2－4工区	10.4
29	安心院町	地域改善事業		楢本第3工区	2.5
30	安心院町	〃		平山第6工区	0.5
31	豊後高田市	県営圃場整備	豊後高田	並石工区	8.0
32	豊後高田市	〃	真中	上野4工区	6.2
33	豊後高田市	〃	並石南部	新栄2工区	6.0
34	大田村	〃	田原	中河内工区	5.0
35	大田村	〃	朝田	4工区	6.3
36	真玉町	〃	真玉	真玉泊8工区	6.0
37	真玉町	団体営		臼野工区	5.5
38	香々地町	県営圃場整備		佐古1・2工区	10.5
39	香々地町	団体営		堅来工区	1.8
40	国見町	県営圃場整備	国見東部	島田工区	5.0
41	国見町	〃	国見西部	浦手工区	3.0
42	国東町	〃	国東南部	重藤9工区	8.4

番号	市町村名	事業名	地区名	工区名	面積(ha)
43	国東町	県営圃場整備	富来	羽田工区	9.5
44	国東町	〃	富来南部	瀬和田4-6-8工区	4.4
45	国東町	団体営	成仏	堂ノ下工区	0.5
46	国東町	〃	〃	漆原工区	0.7
47	国東町	〃	〃	揚田工区	0.9
48	国東町	〃	〃	東田工区	0.2
49	武蔵町	県営圃場整備	武蔵	志和利工区	15.0
50	武蔵町	〃	武蔵東部	7・8工区	5.0
51	武蔵町	〃	武蔵南部	糸原工区	4.0
52	武蔵町	地域改善事業		古市工区	4.0
53	安岐町	小規模排水対策事業		尾崎工区	8.5
54	安岐町	農地一体開発整備パイロット事業		橋ノ上工区	2.0
55	安岐町	県営圃場整備	二子	富永4・5工区	6.3
56	杵築市	〃	溝井	1工区	1.0
57	杵築市	〃	〃	2工区	1.0
58	杵築市	〃	〃	3工区	5.0
59	杵築市	〃	奈狩江	奈多2工区	4.0
60	杵築市	団体営		藤ノ川工区	1.5
61	杵築市	農村総合整備モデル事業		出原工区	1.5
62	日出町	県営圃場整備	日出東部	中村工区	14.0
63	日出町	団体営		八代工区	0.4
64	日出町	小規模排水対策事業		平原工区	5.1
65	山香町	県営圃場整備	山香	樋掛工区	8.0
66	山香町	〃	山香第2	船子田工区	3.0
67	山香町	〃	山浦	川床3工区	5.0
68	山香町	地域改善事業		広瀬工区	15.7
69	山香町	〃		高石工区	12.3
70	大分市	県営圃場整備	吉野	6工区	6.0
71	大分市	団体営		宮苑工区	4.5
72	挾間町	県営圃場整備	谷	酒野6工区	1.5
73	挾間町	〃		底鶴工区	5.5
74	挾間町	団体営		詰工区	1.4
75	挾間町	小規模排水対策事業		上中尾工区	5.8
76	挾間町	土地総		朴木工区	0.9
77	挾間町	〃		芦松工区	2.4
78	庄内町	県営圃場整備	南庄内	野畑2工区	6.0
79	庄内町	〃	〃	上淵工区	4.0
80	庄内町	〃	阿蘇野	換地1・3工区	9.0
81	庄内町	地域改善事業		日ヶ暮工区	7.0
82	庄内町	総合整備事業		雲取工区	2.0
83	野津原町	県営圃場整備	野津原	辻原工区	11.0
84	湯布院町	団体営		幸野工区	2.6

番号	市町村名	事業名	地区名	工区名	面積(ha)
85	湯布院町	総合整備事業		下湯平工区	2.1
86	九重町	団体営		木納水工区	1.9
87	九重町	小規模排水対策事業		中巣工区	道路
88	玖珠町	県営圃場整備	玖珠	板屋工区	22.0
89	玖珠町	〃	〃	古後工区	8.0
90	玖珠町	団体営		清水工区	2.2
91	玖珠町	小規模排水対策事業		片平田工区	5.5
92	玖珠町	土地総		西谷2期工区	0.7
93	天瀬町	広域農道		大坪工区	450m
94	天瀬町	農地開発促進		金ヶ塔工区	7.0
95	上津江村	〃		若林工区	5.2
96	上津江村	〃		小平工区	2.0
97	日田市	〃		三和平第2工区	5.5
98	日田市	団体営		諸留工区	5.4
99	日田市	〃		伏木工区	1.5
100	久住町	県営圃場整備	白丹	稲葉1工区	4.5
101	久住町	〃	〃	陽谷工区	2.5
102	久住町	〃	柏木	古市工区	5.0
103	久住町	〃	久住	牧の元工区	6.0
104	久住町	小規模排水対策事業		太田工区	7.1
105	久住町	〃		小路工区	1.0
106	直入町	県営圃場整備	長湯	栃原工区	3.0
107	直入町	〃	〃	筒井工区	2.0
108	直入町	〃	〃	長野工区	3.0
109	直入町	団体営		小津留工区	2.0
110	荻町	県営圃場整備	荻	鳩の原工区	1.3
111	荻町	〃	〃	桑木工区	1.0
112	荻町	〃	柏原第2	鳩ノ原工区	8.0
113	荻町	畑地帯総合土地改良	大野川上流	木下団地工区	1.8
114	竹田市	〃	〃	竹田工区	8.7
115	竹田市	〃	〃	上畑団地工区	2.2
116	竹田市	農地開発事業		飛田川工区	4.0
117	竹田市	農地開発促進		鉢山工区	2.0
118	竹田市	県営圃場整備	宮砥	妙見1工区	2.1
119	竹田市	〃	〃	井伏3工区	2.9
120	朝地町	〃	市万田・池田	館工区	8.0
121	朝地町	〃	朝地	北平工区	3.0
122	清川村	土地総		柿ノ木原工区	3.2
123	大野町	県営圃場整備	大野東部	藤北工区	6.1
124	大野町	〃	〃	十時工区	3.9
125	大野町	〃	大野西部	田代工区	6.1
126	大野町	〃	〃	若宮工区	2.7

番号	市町村名	事業名	地区名	工区名	面積(ha)
127	大野町	団体営	大野原	中原工区	1.8
128	大野町	畑地帯総合土地改良	大野原	佐渕工区	0.3
129	大野町	〃	〃	岩上工区	4.0
130	大野町	〃	〃	中道工区	2.7
131	大野町	〃	〃	田代工区	4.4
132	大野町	〃	〃	宮迫工区	6.2
133	大野町	〃	〃	田中工区	4.0
134	大野町	〃	〃	川南工区	2.3
135	大野町	〃	〃	川南工区	2.0
136	大野町	〃	〃	桑原工区	11.2
137	千歳村	〃	大野川中央	高添工区	10.0
138	三重町	県営圃場整備	三重西部	羽飛工区	7.0
139	三重町	〃	三重東部	菅尾工区	11.0
140	三重町	小規模排水対策事業		内田下川原工区	6.8
141	三重町	農地総合開発事業		向野工区	4.3
142	犬飼町	県営圃場整備	柴北	栗ヶ畑工区	6.5
143	犬飼町	〃	〃	倉下工区	2.6
144	犬飼町	団体営		柚野木工区	2.4
145	犬飼町	農村基盤総合事業		長谷工区	4.4
146	野津町	県営圃場整備	野津南部	吉田工区	19.0
147	野津町	〃	野津東部	清水原工区	3.0
148	野津町	〃	〃	溜水工区	1.0
149	野津町	〃	〃	長谷工区	2.0
150	野津町	団体営	南野津		2.6
151	野津町	土地総		川登工区	1.7
152	野津町	〃		川登工区	2.6
153	臼杵町	畑地帯総合土地改良	中臼杵	久木小野工区	13.5
154	臼杵町	〃	〃	吉小野工区	7.1
155	臼杵町	〃	〃	板川野工区	5.0
156	臼杵町	〃	〃	岩屋川工区	5.6
157	臼杵町	県営圃場整備		吉小野工区	3.0
158	臼杵町	小規模排水対策事業		カキダキ工区	6.2
159	臼杵町	土地総		野田工区	農道
160	臼杵町	農村総合整備モデル事業		荒田工区	3.0
161	佐伯市	県営圃場整備	木立	6－3工区	2.0
162	佐伯市	団体営		上黒沢工区	1.9
163	弥生町	土地総		平井工区	1.0
164	蒲江町	〃		森崎工区	6.4
165	宇目町	県営圃場整備	宇目	1工区	6.5
166	宇目町	〃	〃	3工区	3.5
167	宇目町	〃	小野市	田原工区	9.0
168	直川村	〃	直川	上直見4－6工区	9.0



第１図　昭和62年度県内遺跡詳細分布調査及び試掘調査位置図

Ⅱ　分布調査の概要

分布調査

分布調査は年度当初に県農政部と協議を行ない、県内で年度内に施行が予定されている農業関係開発事業地区を対象とした。調査は3次に分けて実施した。1次調査は5月から6月にかけて行ない県内の対象地区約170ケ所を踏査した。その結果、新たに遺跡の発見された工事予定地や、地理的条件・歴史的環境からみて、遺跡が存在する可能性が強い地区については2次調査として試掘調査を実施した。それと併行して11月以降、工事施行地区については立ち合い調査を行なった。

以下の表は、今年度の分布調査の結果、試掘調査や工事中の立ち合い、工法等の変更など、何らかの保護措置をとった工区である。（坂本）

第2表　**昭和62年度調査対象地一覧**

番号	市町村名	工区名	遺跡名	概要	備考
1	中津市	洞の上	安平遺跡	犬丸川の西岸の微高地で、昭和61年度隣接地でバイパス建設に伴う発掘調査を実施。	中津市教委調査
2	中津市	赤迫		台地に挟まれた谷部であるが、一部に微高地もあり遺跡の存在する可能性もある。	中津市教委調査
8	本耶馬渓町	本耶馬渓 中部跡田	跡田	羅漢寺の参道周辺に広がる谷底平部で、石斧等が採集されることがある。	県教委試掘
9	本耶馬渓町	多志田	多志田	山国川の周辺に開けた谷底平部で、縄文時代の遺物や弥生土器が散布している。	県教委試掘
11	耶馬渓町	柾木		山国川の支流沿いに開けた微高地で、周辺に比較して、広い谷で遺跡が存在する可能性がある。	工事立ち合い
13	山国町	草本		東に緩く傾斜する谷底平野で、周辺に石塔などあり、遺跡が存在する可能性が強い。	工事立ち合い
15	宇佐市	高森東	和気遺跡	寄藻川につき出した標高約30mの丘陵上に土器片が多量に散布している。	宇佐市教委が対応
17	宇佐市	下敷田	吉久遺跡	五十石川の東岸の丘陵上の遺跡で、標高は約10mである中世の遺物が散布。	宇佐市教委が対応
24	院内町	東第4		恵良川沿いの段丘で、石塔などが散在しており遺跡の可能性が強い。	
28	安心院町	新貝川恒松	安心院条里遺跡	県内に残り少ない条里遺構であるが一部乱れも認められるものの依然残っている。	県教委試掘・安心院町教委調査
32	豊後高田市	直中上野	上野条理遺跡	国東半島の内陸の最大の平地で、縄文時代から古墳時代の遺跡が確認されている。	豊後高田市教委調査
33	日田市	小迫	小迫辻原遺跡	日田盆地の北側の標高130m前後の台地で、遺物が全面に散布している。	日田市教委調査
34	大田村	朝田4工区		県指定の石塔が近くにあり、地理的には谷間であるが、工事には注意が必要である。	
38	香々地町	佐古1・2		竹田川沿いの段丘で、昨年度の工事区域内の一部に遺物が散布しており、遺跡の可能性がある。	
39	香々地町	聖来		海岸に近い沖積地であるが、姫島産の黒曜石が散布しており遺跡と確認された。	
42	国東町	国東東部 重藤9	重藤遺跡	伊予灘につき出たる丘陵で、畑地や水田の表面に遺物がみられ。	国東町教委調査
43	国東町	富来・羽田	羽田遺跡	縄文後期の羽田遺跡として周知されている地区の内陸部の砂丘が工事予定地となっている。	国東町教委調査
58	杵築市	溝井3工区		昨年度の工事施工地で貝塚が発見されており今年度はその対岸が工事の予定地である。	
67	山香町	山浦川床3		山蔵川に西から張り出した低丘陵で地理的にみて遺跡が存在する可能性が強い。	県教委調査
71	大分市	宮苑		近くに千代丸古墳があり、数年前には中世の館も確認されており、ここも工事には注意が必要である。	大分市教委対応
77	挾間町	芦松		石城川に北からつき出した丘陵で、地理的にみて遺跡の可能性が強い。	

番号	市町村名	工区名	遺跡名	概要	備考
80	庄内町	阿蘇野換地1・2		分布調査の際サヌカイトと思われる石片を多数採集し遺跡の存在が予想される。	県教委調査
88	玖珠町	玖珠板屋	小田遺跡群	玖珠川の南岸沿いの段丘上の遺跡群で昭和60年度から調査している地区の西端にあたる。	玖珠町教委調査
93	天ケ瀬町	大坪	大坪遺跡	宇土遺跡の西側の丘陵で、前年の試掘で遺跡の存在が確認されている。	天ケ瀬町教委調査
98	日田市	諸留		有田川沿いの水田地帯で、数年前に工事をした地区で土器片等が出土している。	日田市教委調査
99	日田市	伏木		市瀬川の支流沿いの山間の台地で、南に緩く傾斜面となっており、遺跡の可能性がある。	日田市教委調査
106	直入町	長湯栃原		芹川沿いの谷底平野である。周辺の微高地には遺跡が多く確認されている。	県教委試掘町教委調査
107	直入町	長湯筒井		芹川沿いの谷底平野で、北に緩く傾斜する斜面に遺跡が数ケ所確認されている。	県教委試掘町教委調査
108	直入町	長湯長野		芹川沿いの谷底平野で、周辺の微高地には遺跡が多く確認されている。	県教委試掘町教委調査
110	荻町	柏原鳩ノ原	鳩ノ原遺跡	荻町の最南部の標高500m前後の台地で、各所で縄文・弥生の土器片が散布している。	工期変更
111	荻町	桑木	クモ手遺跡	荻町特有の台地に挟まれたやや低い畑地である。数年前に試掘した結果遺跡が確認されている。	工期変更
115	竹田市		ヤトコロ遺跡	標高約600mの火山灰台地で、縄文早期のヤトコロ式土器の標式遺跡として知られている。	竹田市教委調査
117	竹田市	鉢山		標高500m以上の山間部であるが、一部畑地となっている平坦地があり遺跡の可能性がある。	
119	竹田市	宮砥井伏3		竹田市南部の標高400m前後の尾根状の丘陵地帯で、一部広い平坦地があり、遺跡の可能性がある。	竹田市教委調査
120	朝地町	一万田池田		縄文早期の田村式土器の標式遺跡である田村遺跡の西側で類似した地形であり遺跡の可能性がある。	朝地町教委調査
122	清川村	柿木原	柿木原遺跡	大野川沿いの標高約300mの広大な台地で、旧石器時代から古墳時代の遺物が散乱している。	工期変書
124	大野町	大野東部十時		田代川沿いの谷底平野であるが、周辺の台地には弥生時代から古墳時代の遺跡があり工事には注意が必要である。	
125	大野町	大野西部住吉		酒井寺沿いの南に緩く傾斜する水田地帯であるが、周辺には横穴墓などがあり遺跡が存在する可能性がある。	
126	大野町	大野西部大島		酒井寺川沿いの谷底平野で、一部微高地があり遺跡の存在が予想される。	
137	千歳村	大野川中央高添	高添遺跡	大野川中流域の代表的な台地で、標高130m前後で、台地上には旧石器時代から古墳時代の遺物が散布している。	千歳村教委調査
138	三重町	三重西部羽一飛		周辺の標高100m前後の丘陵に囲まれた低地であるが、一部に微高地があり遺跡の可能性がある。	
140	三重町	内田下川原		三重川西岸の低地であるが、一部に微高地があり遺物の散布も確認された。遺跡がある可能性が強い。	
149	野津町	野津東野長谷		野津川の流域の細長い谷底平野であるが、一部に微高地があり遺跡が存在する可能性がある。	
153	臼杵市	中臼杵久木小野	久木小野遺跡	中臼杵川沿いの標高120m前後の丘陵で、上面には遺物が散布している。	工期変更
154	臼杵市	中臼杵吉小野	吉小野遺跡	中臼杵川の西岸の標高120m前後の丘陵で、畑地なっている南に土器片等が散布している。	工期変更
155	臼杵市	中臼杵板川野	板川野遺跡	中臼杵川の東岸の標高120m前後の丘陵で、畑地となっている上面に土器片等が散布している。	工期変更
156	臼杵市	中臼杵岩尾川	岩尾川遺跡	中臼杵川の東岸の標高120m前後の丘陵で畑地となっている上面に遺物が散布している。	工期変更
165	宇目町	小野市田原		田代川沿いの谷底平野で、微高地がいくつかあり遺物がある可能性が強い。	

Ⅲ　調査の概要

1．多志田遺跡（下毛郡本耶馬溪町大字多志田字早瀬）

多志田遺跡は山国川中流域の右岸に位置する。昭和60年度より圃場整備事業が行われている水田地区内に存在する。昨年度（昭和61年度）、県教育委員会によって試掘調査が行われ、縄文時代晩期後葉の刻目突帯文土器を主体とする包含層が検出されている。これをＡ地点とすれば、本年度調査地点（これをＢ地点とする）は跡田川をはさんで東側に位置する。

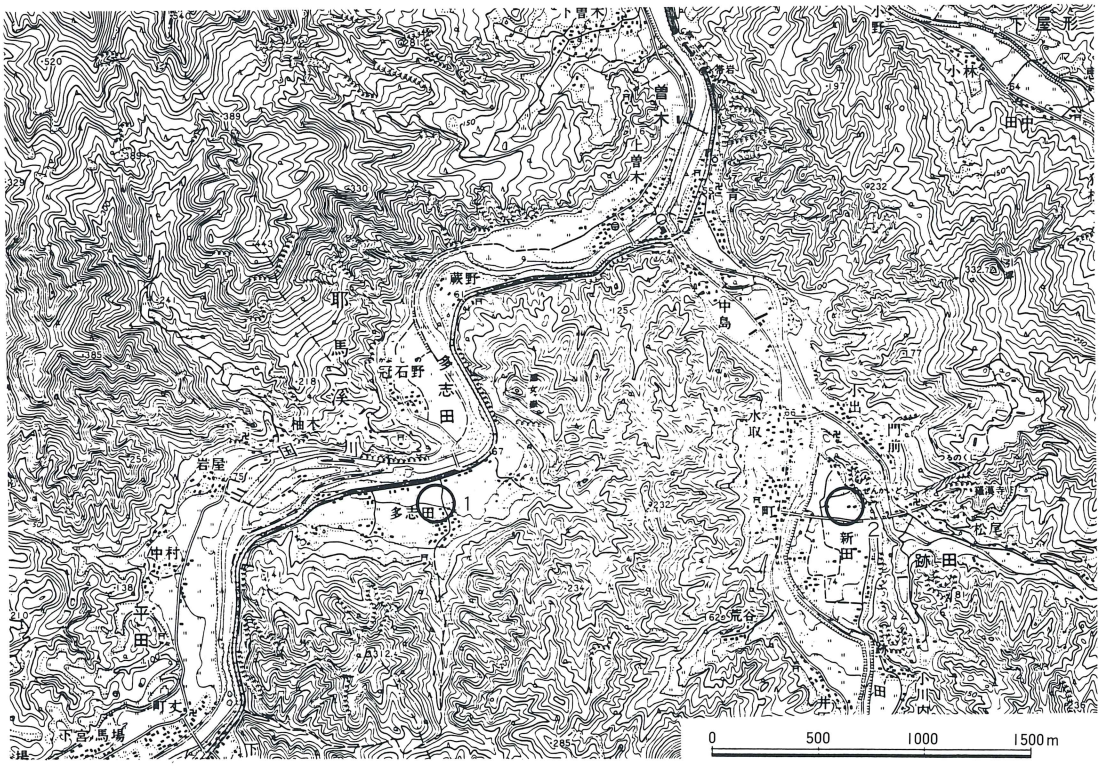
Ｂ地点の試掘調査は２ｍ×２ｍのグリッドを14個設置し、これを掘り下げながら遺物、遺構の有無を調べた。

土層（褐色の耕作土）、Ⅱ層（黄褐色の床土）、Ⅲ層（黄褐色の遺物包含層）という層位を確認。土層は約20㎝、Ⅱ層は30㎝。試掘した各グリットからはⅡ層下面～Ⅲ層上面で比較的多量の縄文後期土器片が検出され、他に磨石、叩石等が出土している。

当局と協議のうえ、前年度と同様、削平工事を変更し、遺跡の保全を計った。

2．跡田遺跡（本耶馬溪町跡田折元）

調査地点は跡田川の右岸で、水田として利用されている地区である。14個のグリッドを設定し試掘した。耕作土（土層）、床土（Ⅱ層）、黒褐色土（Ⅲ層）と続くが、黒褐色土層の下は人頭大の円レキで、川から山側へ近づくほどⅢ層が浅く、レキが増加する。Ⅰ～Ⅱ層から近世陶器片が出土するだけで、良好な遺物、遺構は検出されていない。（高橋徹）



第２図　調査区位置図（1．多志田遺跡・2．跡田遺跡）

多志田遺跡遺物出土状況

同縄文土器出土状況

３．居屋敷遺跡（中津市大字伊藤田字洞ノ上）

調査は昭和63年度洞ノ上地区団体圃場整備事業実施区域内で行なった。同地区は昭和55年度より継続事業として圃場整備事業が実施されており、63年度が最終年度となる。

周辺は、東西を八面山から延びる舌状台地に狭まれた谷間で、西側の台地裾から東側に向かって緩やかに傾斜している。居屋敷遺跡はこの西側の微高地の先端に位置し、分布調査の段階で須恵器片、土師器片などが採集された。

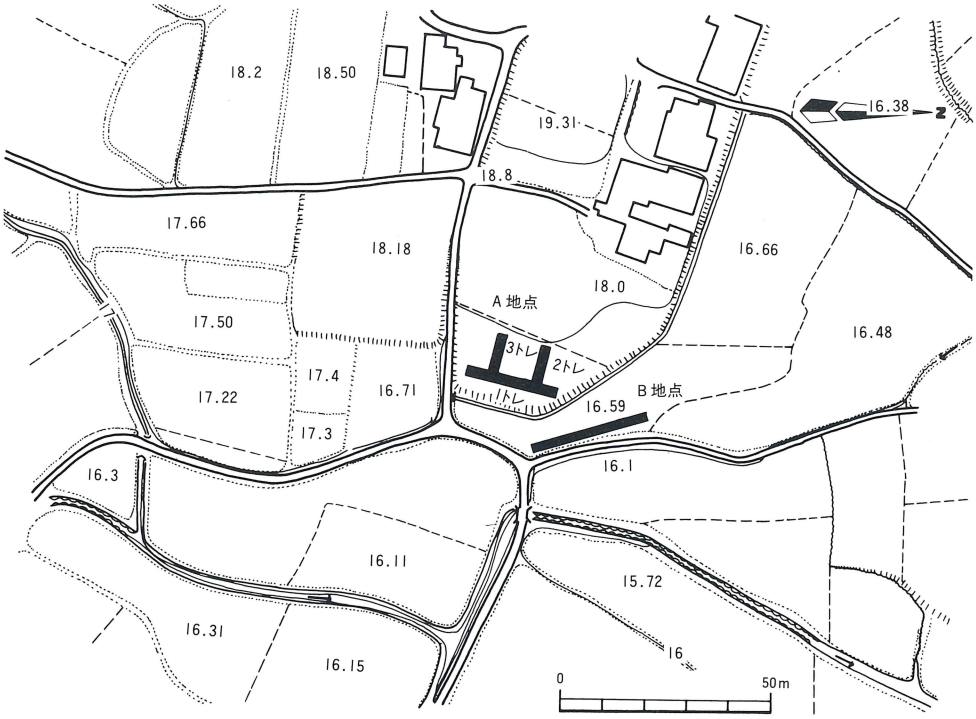
調査は３月24日、28日、31日の３日間行なったが、麦の作付の関係上、非常に限られた範囲で実施せざるえなかった。まず調査区を地形の関係上、Ａ・Ｂ地点に分け、Ａ地点では２ｍ×20ｍの第１トレンチとこれに直交して２ｍ×６ｍの第２、３トレンチを設定した。またＢ地点では２ｍ×25ｍのトレンチ１本を設けた。

Ａ地点ではピット10数ケ所と、不定形土壙１基、竪穴住居址と思われる落ち込み１基などを検出した。出土遺物は須恵器片、土師器片をはじめ、石匙（サヌカイト）、石鏃（姫島産黒曜石）、剝片（同）、瓦器片、青磁片、染付などを検出した。

Ｂ地点はＡ地点に比べ１段下った水田で、比高差は約 1.2ｍ程である。特に明確な遺構は検出されなかったが、須恵器片、土師器片、瓦器片などが出土した。

以上の点から、Ａ地点では集落等の存在が考えられ、63年度本調査を行なうこととし、Ｂ地点については再度確認調査を行なうこととした。（栗焼）

遺跡遠景（東より）

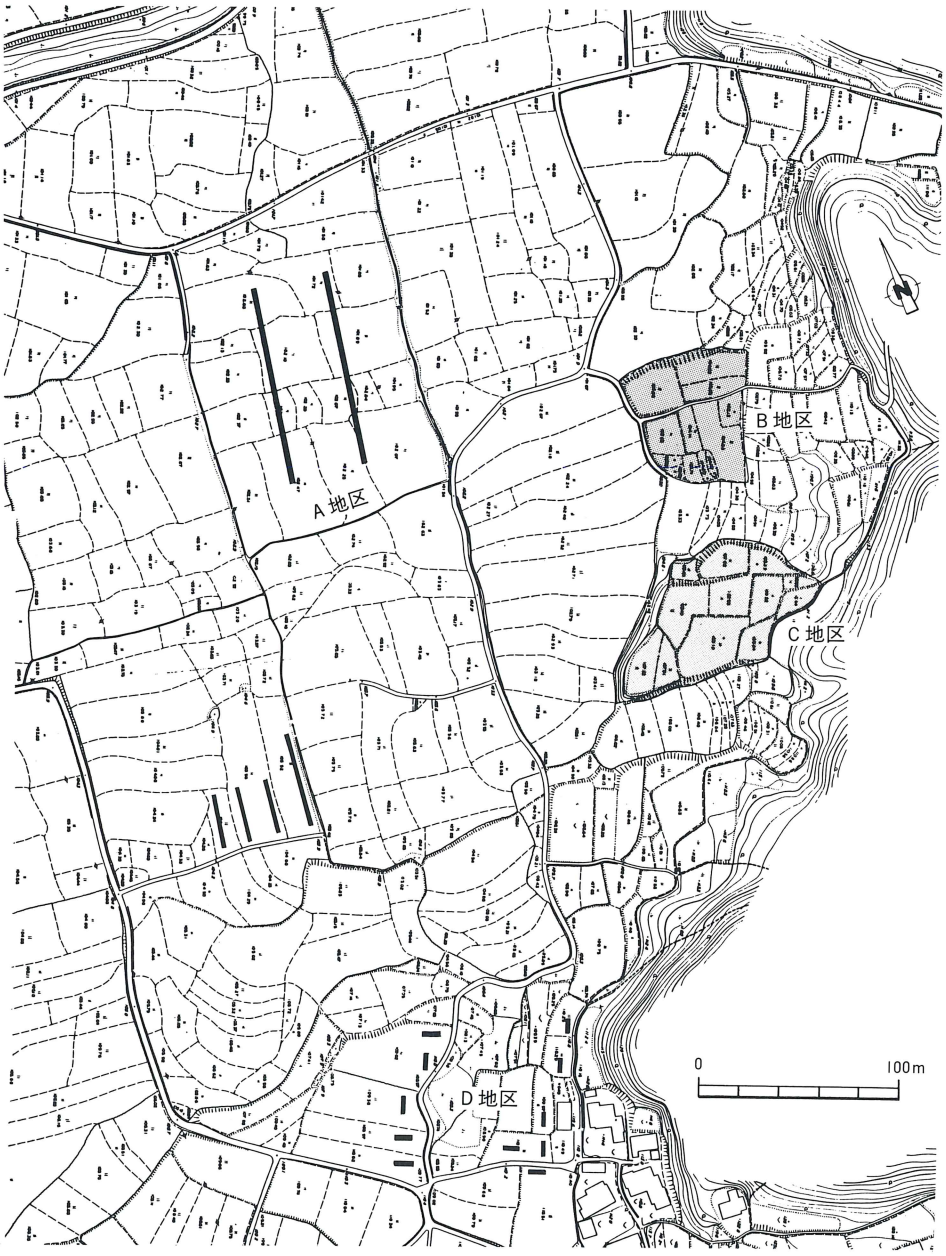


第３図　居屋敷遺跡周辺地形図

4．安心院恒松地区条里跡（宇佐郡安心院町大字恒松）

安心院盆地を流れる駅館川の支流新貝川流域は、幅500m、長さ約2Kmの水田地帯となっており、深見川との合流近くでは条里遺構がのこされている。この北に緩傾斜した水田の東西両山麓には、辻、恒松、〆野といった小集落が点在する。また、条里跡の東側には山裾から西に突出した、水田との比高2～8m程度の小台地がいくつか存在する。

この小台地を含む水田地帯は、昭和62年度県営新貝川地区圃場整備事業対象地域となっており、このため事前調査を実施するに至った。調査は、稲の収穫時期の関係で、1次（A～C地



第4図　安心院恒松地区条里試掘調査位置図

区）、２次（D地区）に分けて調査を実施した。調査の際の表土除去は主としてユンボを使用した。

以下、各地区の試掘調査結果である。

A地区　水田部は条里制遺構が残るため、南北トレンチによる遺構確認を行った結果、現水田盤下、約60㎝で粘質の強い灰色の盤土が見られ、この面で遺構、遺物が確認された。遺構は東西に延びる杭列や河道跡で、河道部より若干の遺物（第５図）が出土した。杭列は現在の畦畔と一致するものであるが、その時期は不明である。しかし、水田部は非常に緩傾斜地であるため、本工事は面工事となり、遺構検出面までの削平は実施されることがなく、本調査対象から除外した。

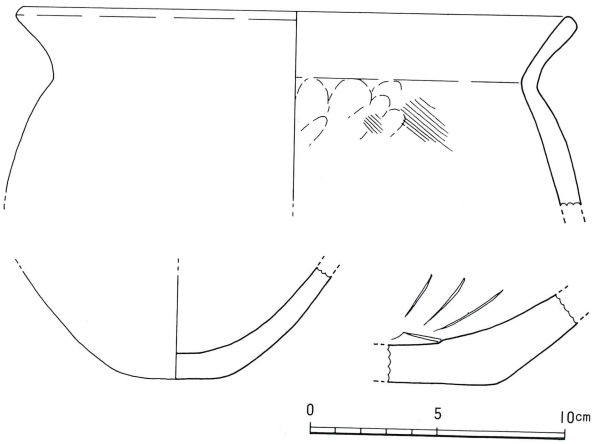
B地区　北東端にある水田部との比高約２～３ｍの小台地で、この地区及び南に隣接するC地区とも、工事により完全に削平されるため、ユンボにより、ほぼ全面の表土剝ぎを実施した。

表土より20～30㎝で粘質の灰色土が現われ、この面で遺構が確認された。遺構は、柱穴と集石土壙等で、遺構内外から陶磁器や石臼等の遺物が出土している。このため、この地区については年度内に本調査を実施することにした。

C地区　B地区の南に隣接する、水田との比高５ｍ程度の台地である。この地区は「堂の上」と呼ばれ、寺があったものとして伝承されていた。しかし、水田盤下の土層は、B地区とは大きく異なり、やや粘質のある非常に軟質な茶褐色土が厚く堆積しており、遺構等の検出はできなかった。

D地区　水田部の南奥部のやや傾斜の強い地区にトレンチを入れたが、遺構等は検出できなかった。

以上の結果より、水田部の条里遺構は別として、B地区では17～18世紀頃の陶磁器類（肥前系染付碗等）が出土したが、これに伴うと考えられる柱穴、土壙検出したことから、本調査を実施した。その結果、江戸期の民家跡とみられる掘立建物と石臼等の遺物を検出することができた。（牧尾）



第５図　安心院恒松地区条里跡Ａ地区出土遺物

新貝川地区遠景

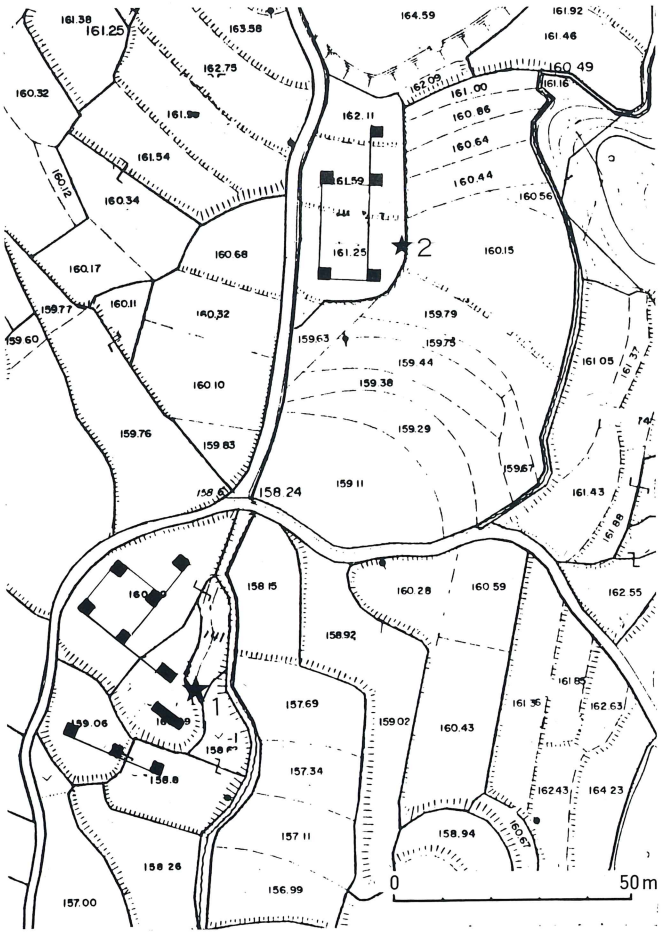
B地区遺構検出状況

5．本篠遺跡（速見郡山香町大字山浦字本篠）

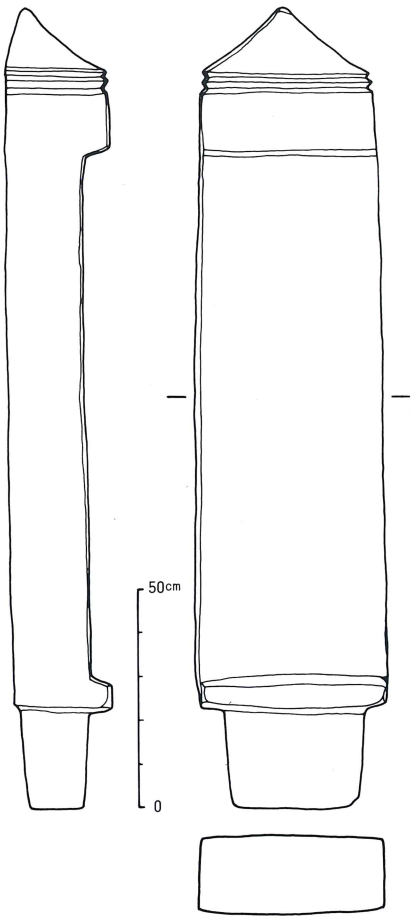
遺跡は山香町の中心部から西４Kmの小盆地を形成する山浦地区にある。調査は昭和62年度山浦地区県営圃場整備事業に先立って実施した。この事業予定地内において、事前に分布調査を実施した際、若干の遺物を採集したことと、県指定板碑（建武元年銘）が存在することから、関連遺構の確認のための試掘ピット（第６図）を十数ケ所調査した。調査地点は、削平が予定されている地点に限定して行った。

試掘調査の結果、水田耕作、畑地耕作土の直下は基盤の角礫混りの風化土であり、包含層・遺構ともに検出できなかった。なお表土中からは、土師器片、瓦器片・サヌカイト片等が数点検出されている。これから、開田以前に何らかの遺跡が存在していたものと考えられる。また県指定板碑の北100m地点において、建武元年銘の同板碑より一まわり小さいほぼ同型の板碑が発見されている。（第７図）

なお、建武元年銘板碑については、関係機関との協議の結果、工法の変更により現地保存されることになった。（清水）



第６図　本篠遺跡グリッド配置図
１は建武銘板碑　２は無名板碑



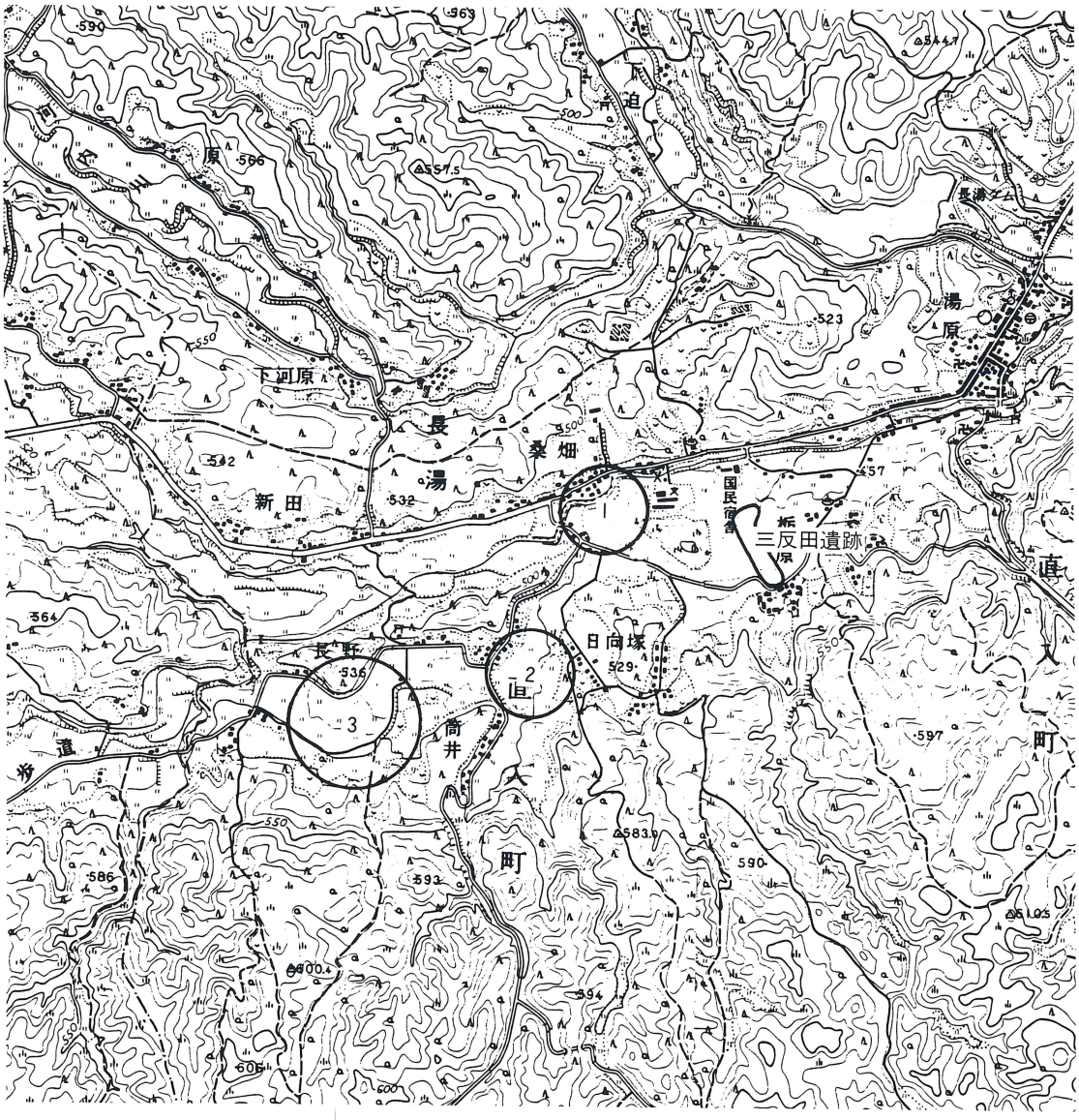
第７図　無銘板碑実測図

６．横枕遺跡（直入郡直入町大字長湯字横枕）

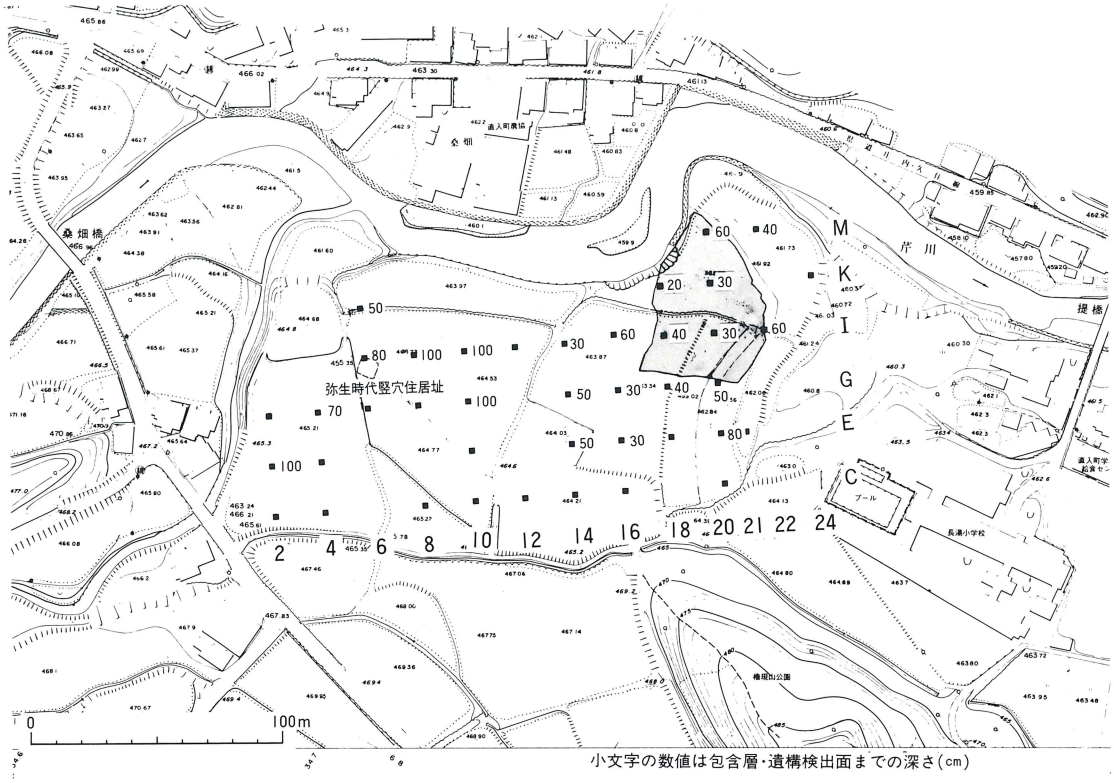
横枕遺跡は、大分川の支流の芹川右岸にある。周辺には火山起源の丘陵が展開しており、東方約300mにある北方に延びる低丘陵には1984年に調査された三反田遺跡がある。ここでは、旧石器時代・縄文時代（早～晩期）・古墳時代の遺物・遺構が発見されているが、横枕遺跡は三反田遺跡よりも低位に位置しており旧氾濫原上に立地している。

今年度の県営圃場整備工事対象地は、芹川と長湯小学校と権現山に囲まれた東西約250m・南北約150mの範囲である。20m間隔で2m×2mの方形の試掘穴を設定して遺構・遺物の有無と検出面までの深さを調査した。

その結果、調査区南端部以外では遺構や遺物包含層が存在することが明らかとなった。検出



第８図　直入町内の試掘地区（1.横枕、2.日向塚、3.長野）



第９図　横枕遺跡グリッド配置図

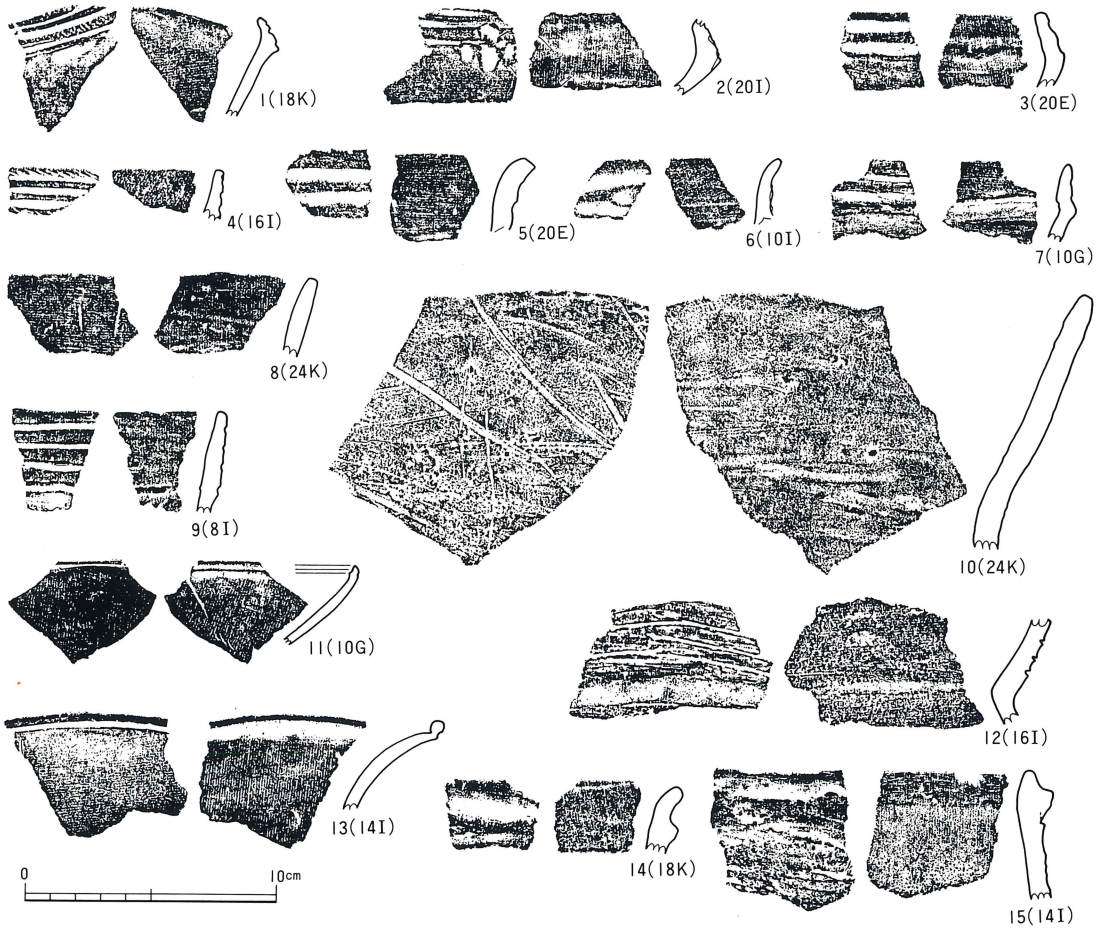
したものは、弥生時代では後期の竪穴住居址１基のみで、主体となるのは縄文時代後・晩期の遺物包含層である。旧河川上にあるため層序は通常の火山灰層ではなく、包含層の下位は礫層で包含層及び上位の層は砂質で、礫の混入も少なからず認められた。

遺跡の状態と工事計画図とを照らしあわせると、16区以西では遺物包含層は削平されないが18～24・Ｉ～Ｍ区が完全に削平されてしまうことが判明した。当局と協議した結果、工事計画の平面区画を一部変更し且つ他処より客土して削平部分を狭めることとし、それでも破壊される部分については原因者負担による発掘調査を別途実施することとした（第９図網部）。

図示した遺物は縄文時代の資料である（第10図１～15）。１～７は後期、８～15は晩期に属している。１は波状口縁で縄文・三本沈線による文様をもつ。西平式土器である。２～４・７は沈線文で４は短かい沈線列を加えている。５・６は巾広の沈線内と器面を磨いている。２～７は三万田式土器に前後する土器である。８～10・12は晩期前葉、14・15は晩期後葉の土器である。

なお、本遺跡はその後発掘調査が実施され試掘時には寺田遺跡としたが、横枕に変更した。晩期の竪穴住居址１基が検出された。直入町教育委員会より次の日向塚遺跡とともに、今年度報告書が刊行される予定である。（高橋信武）

横枕遺跡試掘状況



第10図　横枕遺跡出土土器実測図（カッコ内は出土地）

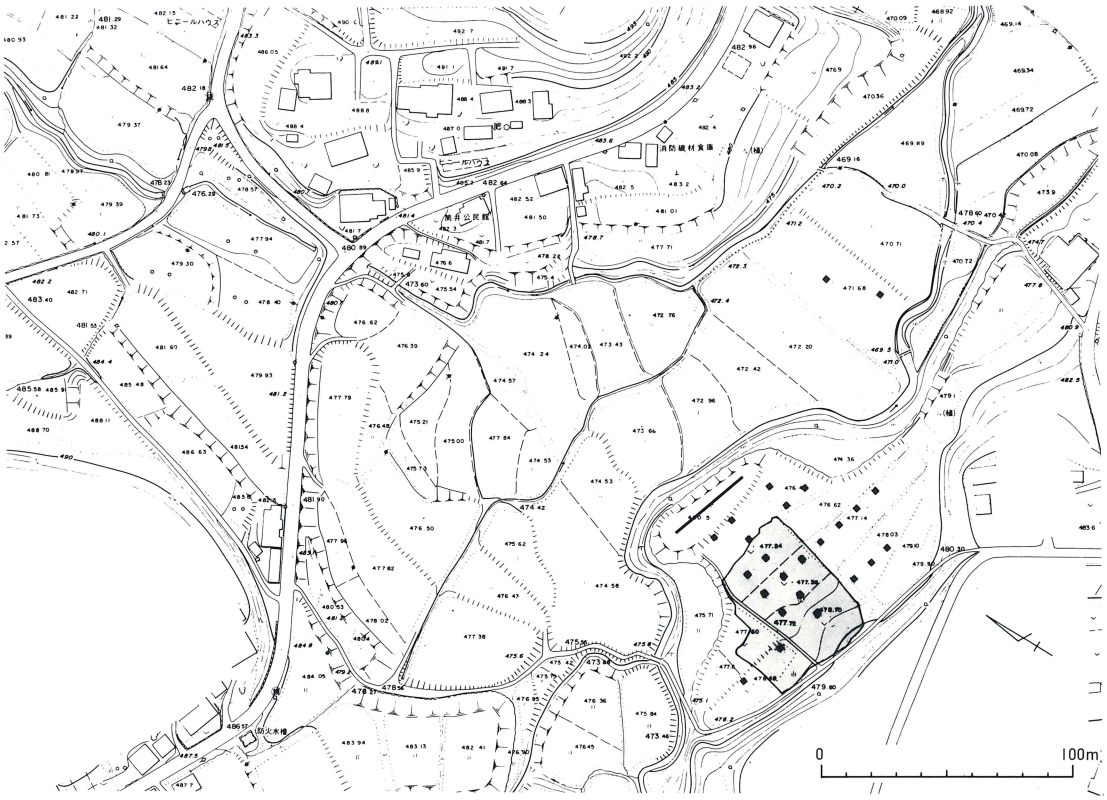
7．日向塚遺跡（直入郡直入町大字長湯字日向塚）

日向塚遺跡は横枕遺跡の南西約600mの位置にある。昨年度は隣接する南西部の圃場整備工事が行われ、今年度踏査の際にその部分より旧石器・押型文土器・弥生式土器等が採集されたため、今回の工事分について試掘調査を行うこととした。

地形的には北部は全体の⅔を占め緩斜面を利用した階段状の水田となっており、以前にも小規模水田を拡大する工事が実施されている。試掘は2個の試掘穴を設けただけだが、遺物包含層らしきものは見出せなかった。後日の工事中にも観察したが、遺構・遺物は発見されなかった。

一方、南側の残り⅓は丘陵状をなしている。その北端部分は50m×20mほどの弧立した墳丘状をなしているが、それにつづく南側は馬の背状の台地である。本遺跡の試掘調査は南側の台地部を主体に実施した。墳丘状部分の現状は草地で、南側より3mほど高く、頂上は平坦面をなしており、巾1m・長さ35mのトレンチを東西方向に設けた。調査の結査、トレンチ中央部よりやや西寄りに小石を敷きつめた部分が表土の下に検出され、他の部分では5基の土坑墓を検出した。また、土坑墓2の東側で五輪塔の部品を集積した場所が出土した。土坑墓は検出面で掘下げを止めたが、このうち土坑墓3では炭と焼けた人骨の存在を確認した。

台地部は23個の試掘穴を設定して調査した結果、北端の3ケ所以外（ここでは包含層が削平されていた）では歴史時代の遺物が主体的に、縄文時代のものが少量検出できた。



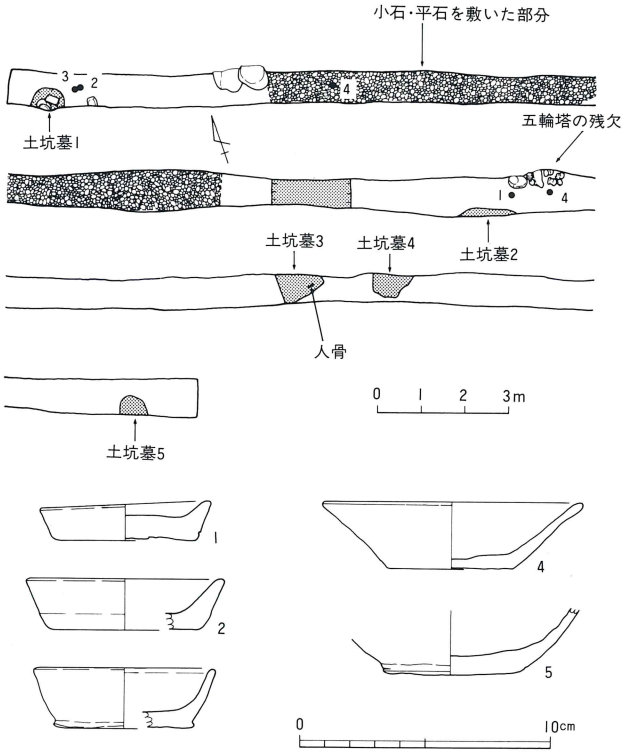
第11図　日向遺跡グリッド配置図

墳丘状の部分は計画では完全に削平する予定であったが、上述のように墓地と分ったため工事区域から除外された。その南側の台地部では殆ど削平されるため、原因者負担の発掘調査を行うこととなった。

日向塚遺跡トレンチの遺物出土状況

第12図1～5はトレンチ部より出土した土師質土器である。1は小皿で、口径6.8cm・器高1.6cmで黄褐色をなす。胎土に角閃石と長石を少量混入し、回転によるナデ調整・糸切り底で器壁が厚い。ほぼ完形で口縁部の1ケ所にすすが付着している。2は小皿で、口径7.9cm・器高2.0cm、やや茶色味のある褐色をなす。胎土に長石と微細な金色の雲母を混入し、回転によるナデ調整・糸切り底である。口縁端にすすが付着している。4は杯で、口径10.4cm・器高2.7cm、黄褐色をなす。胎土に角閃石と長石を混入し、回転によるナデ調整・糸切り底である。5は杯で、口径10cm以上・器高2.6cm以上、黄褐色をなす。胎土に角閃石・長石を混入し、回転によるナデ調整・糸切り底である。

これらの土師質土器には共伴する土器類がないので、細かな時期比定は難しいが17世紀以降のものと思われる。（高橋信武）



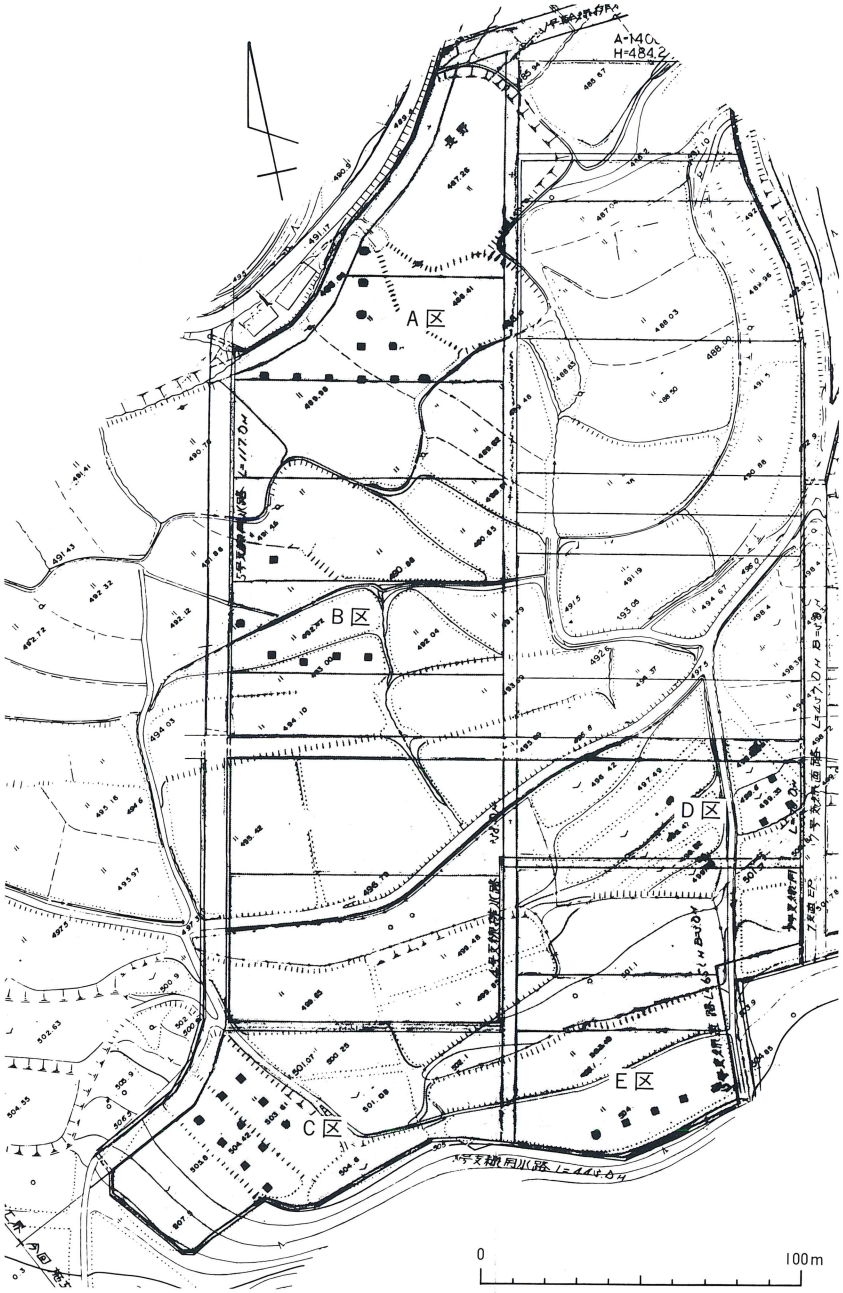
第12図　日向塚遺跡トレンチ平面図・同出土遺物実測図

８．長野地区（直入郡直入町大字長湯字長野）

長野地区は、日向塚遺跡の西約500ｍにある北東下がりの緩傾斜地である。昨年度、西側の隣接地域の圃場整備が実施され、その際の発掘調査によって遺跡の存在が確認されている。縄文時代後期の鐘崎式土器や晩期（弥生時代初頭）の刻目突帯文土器等や、古墳時代前期のＶ字溝（上面の巾３ｍ弱・深さ約2.2ｍ）が東西方向に走るのが検出されている。

それで、本年度の計画地域でも遺跡の存在する可能性があり試掘調査を行った。対象地は南北約300ｍ、東西約180ｍの範囲である。休耕地が少ないために、予定地全域の試掘ができなかった。Ａ～Ｅの５地区で試掘を実施したのだが、Ａ・Ｂ区では通常の台地上に認められる層序を示さず、火山灰の二次堆積が主体であった。Ｃ・Ｄ・Ｅは台地部分にあたり、低地部とは異なった堆積状況であったが、遺物や遺構は検出できなかった。

（高橋信武）



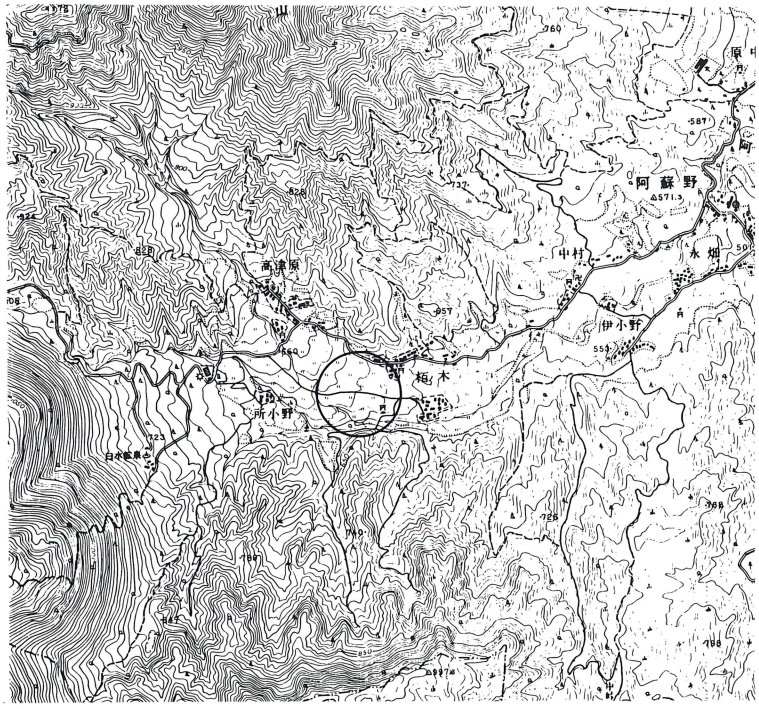
第13図　長野地区グリッド配置図

長野Ｅ地区試掘状況

９．栢（かや）ノ木地区（大分郡庄内町大字阿蘇野字栢ノ木）

九重火山群の黒岳の東側、標高約620m前後の丘陵上にある。北・西・南の三方を比高差500m程の火山に囲まれたこの付近は、東西に細長い階段状の水田地帯となっており、昨年度は本年度の東隣りの地域が圃場整備されている。本年度工事予定地の踏査の際に、工事済部分で縄文時代前期の轟式土器や石鏃を採集したので、本地区の試掘調査を実施することにした。

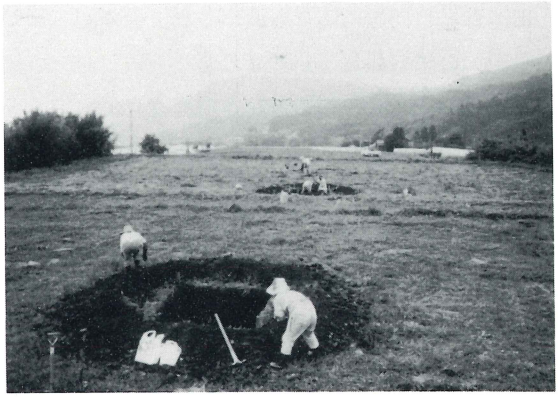
工事予定地は東西約300m・南北約160mの範囲で・西が高く東は低い。また、

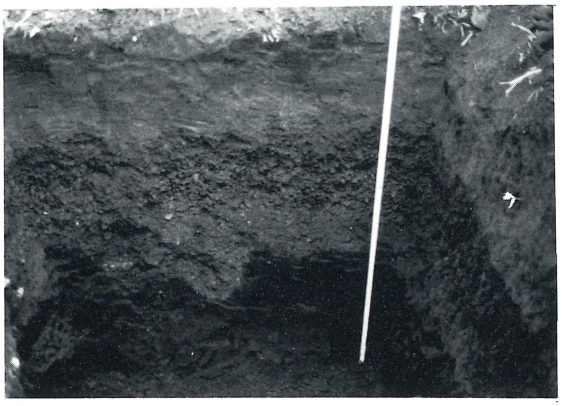


第14図　庄内町栢ノ木地区

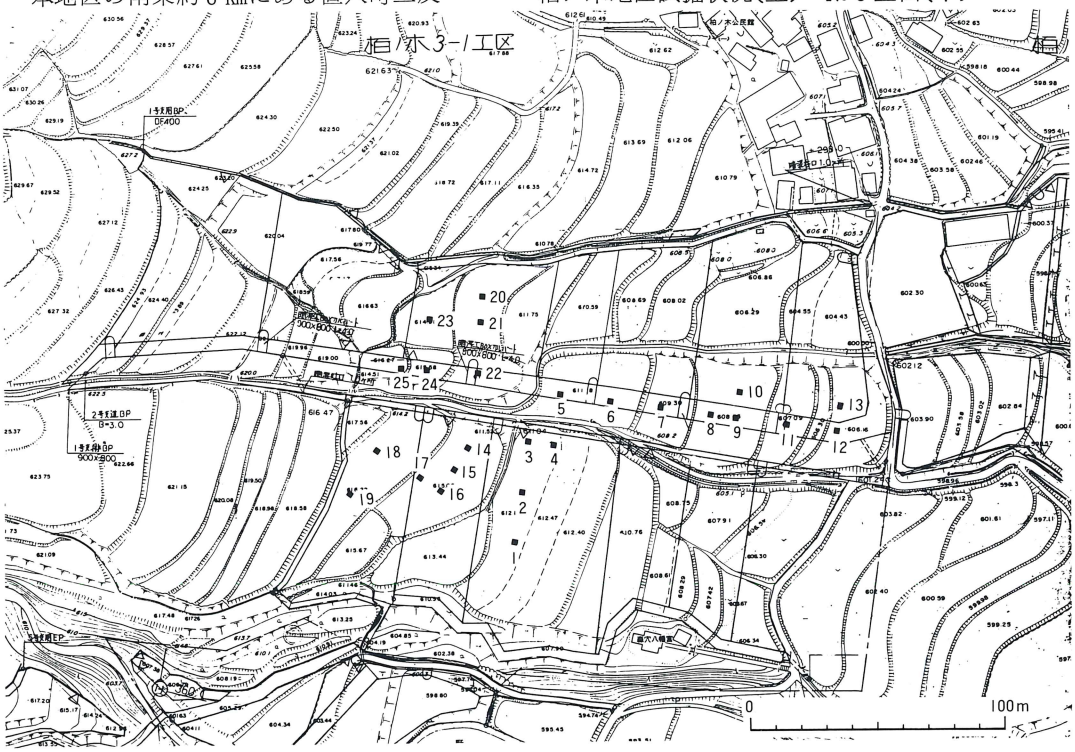
現状の水田区画は北・中・南の3列になっており、北列は南側の2列より相対的に2m程度低い谷状部分にあたる。試掘調査の時点で、工事予定地に作物が植わっている部分が多かったために、発掘可能の場所は限られてしまった。それで西部及び中列を主として試掘することとし、2m×2mの試掘を25個実施した。

栢ノ木地区では2枚の特徴的な層があり、他地域の遺跡例を考える際に参考になるので土層図を示しておく（第　図）。№3グリッドの3層は30cm前後の厚さがあり、上部と下部に分離できる。全体的には褐色土で、上部は黄味をおび下部は灰味をおびて、両者とも少量のスコリアを混入している。これと同様に上下に二分される堆積層が、本地区の南東約8Kmにある直入町三反





栢ノ木地区試掘状況(上)・№3壁面(下)

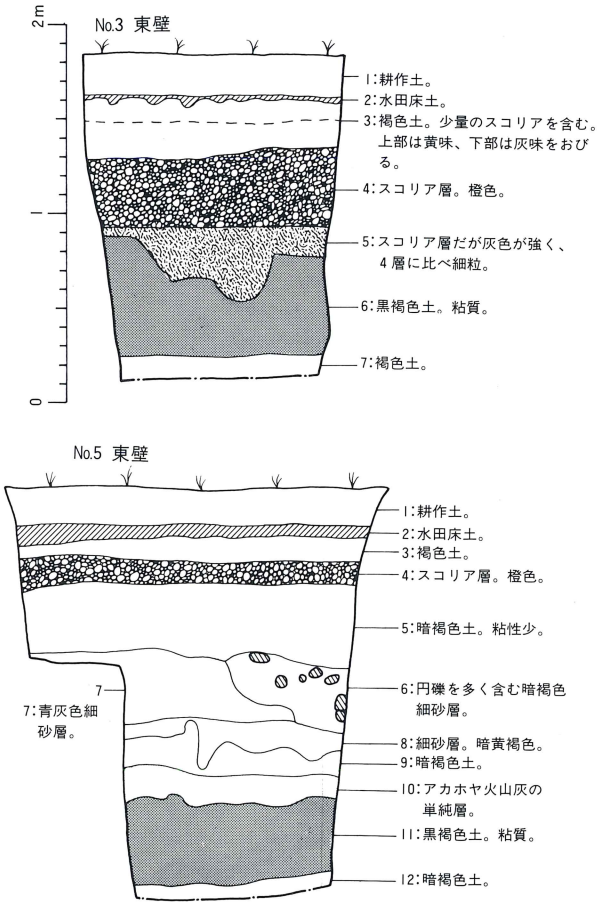


第15図　庄内町栢ノ木地区

田遺跡と日向塚遺跡でも検出されている。三反田遺跡では古墳時代の布留式土器段階（4～5世紀）の竪穴住居址が埋まりきる前に、レンズ状に堆積している。日向塚遺跡では、その層の下位に弥生時代後期の遺物が包含されていて、上位に平安時代10世紀頃の包含層が形成されていた。以上のことから、この褐色の火山灰層は4・5世紀よりも新しく、10世紀よりも古いある時期に墳出したものと考えられる。栢ノ木地区で層厚30㎝ほどで、直入町の日向塚遺跡で数㎝であることから、墳出源は本地区により近く位置するものとみられる。

もう一つの特徴的な層は、橙色のスコリア層である。石炭の燃えかす状のものが残り具合のいい所では40㎝程度存在し、部分的に安山岩質の角礫が含まれている。この岩は、本地区の南西約5㎞にある大船山の米窪火口のものと同一の特徴をもっているので、その墳出物と考えられている（東北大学理学部太田岳洋氏の御教示による。）。また、本地区の南方約20㎞の竹田市や荻町辺でも、類似したものが分布している。そこでは、縄文時代前期から晩期までに対比できる黄褐色土層の上部にまばらに混入しており、肉眼的には同一のもののようである。

今回の試掘では№9グリッドで、橙色スコリア層より下位に相当すると思われる層から、チャート製の小剝片が1点出土したのみであった。（高橋信武）



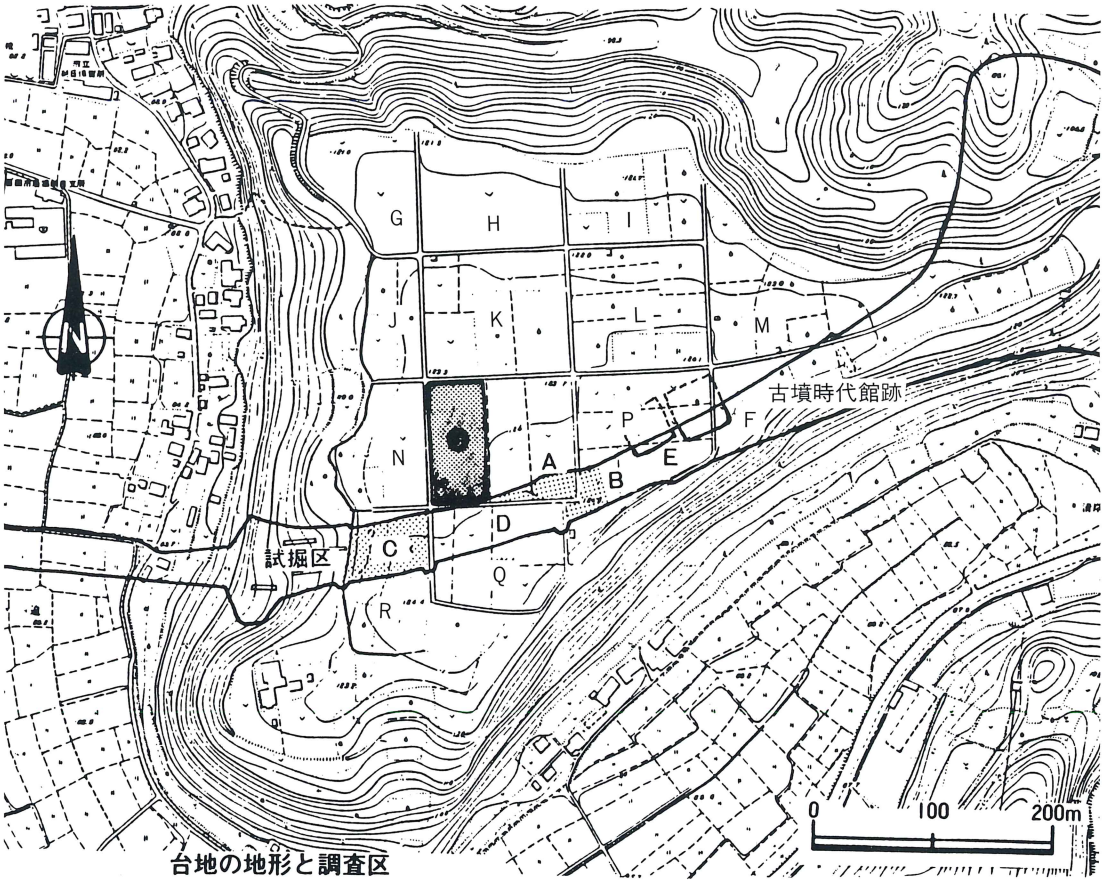
第16図　栢ノ木地区土層図

10．小迫辻原遺跡（日田市大字朝日）

日田盆地三隅川の支流花月川北岸には、沖積低地と北高40～60mをもって接する台地が連っている。各台地の縁辺は急傾斜の崖地形となるが、台地面はゆるやかな起伏をともなった平坦地で、現在その多くが畑地として利用されている。

各台地上には弥生～古墳時代の遺跡が分布する。台地上には主に集落遺跡、古墳等の墓地遺跡、崖面には横穴墓群の分布が顕著である。とりわけ小迫原（小迫原）遺跡の南に隣接する吹上遺跡は、弥生時代を通じての複合遺跡である。近年こうした台地上に九州横断自動車道の建設工事が行なわれており、小迫辻原遺跡を始め重要な遺跡の調査が続けられている。数多くの石棺群が見つかった草場第2遺跡や、やはり多くの横穴が見つかった小迫遺跡がある。更に小迫辻原遺跡に於いても、旧石器時代から近世に至るまでの遺物や遺構が、断続的ながら復合している。特に、弥生生時代の住居址や墓、古墳時代初期の居館なども画期的な発見であった。この様な事情から、路線以外の辻原遺跡の諸地点に於いても遺構・遺物の分布が予想されていた。

今回試掘調査を行なった小迫辻原遺跡O地区の試掘に至る契機は、地力増進事業に端を発している。この地区は、本年度の九州横断自動車道路工事に伴う発掘調査によって明らかにされ



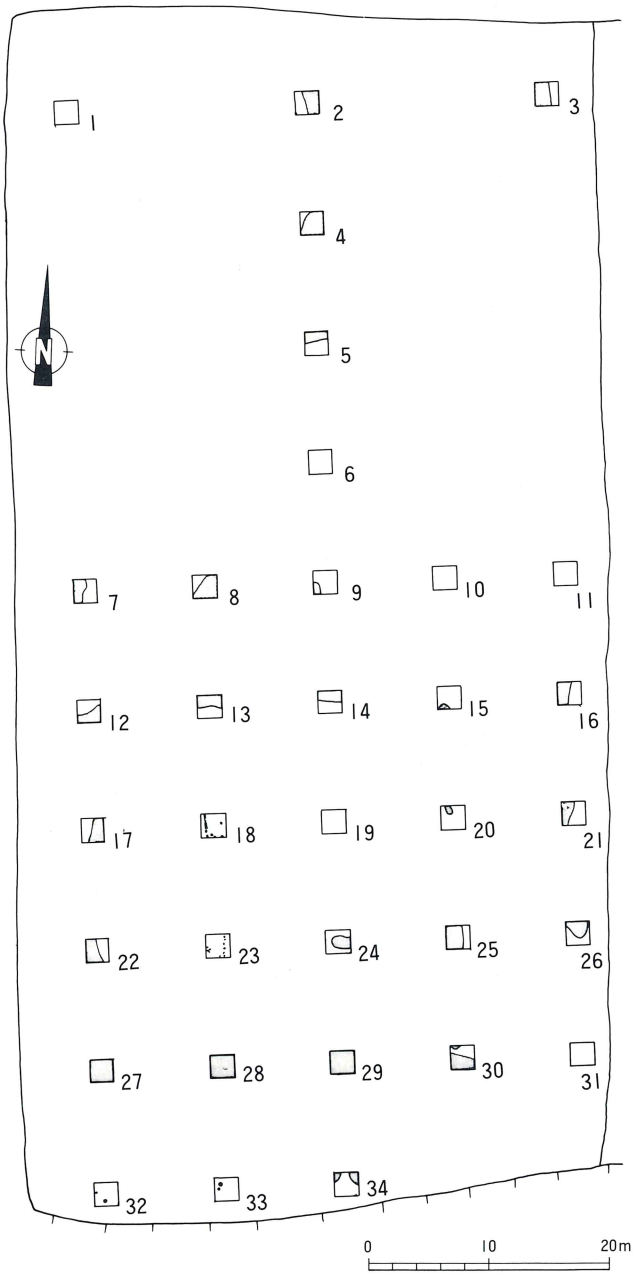
第17図　小迫原遺跡と試掘範囲

た古墳時代前期の2基の居館跡（方形の周溝をもつ）の西100mほどの位置にあり、関連の遺構が存在する可能性の高いところである。このため、日田市教育委員会及び関係者と協議を重ね、事前の試掘調査を実施することにした。

試掘調査は昭和63年2月1・2日に行った。試掘坑は34ケ所設定した（第2図）。その結果、土の色調の変化から住居址かとみられる遺構を20ケ所で、土坑とらみれる遺構を6ケ所で、柱穴とみられる遺構を3ケ所で検出した。更にまた、性格不明の石列を№18・23で検出した。一方、遺物は遺構検出面で発掘を中止したため、少なかった。特に№8・13で多数の土器片を採取したが、いずれも弥生時代前期から中期頃の遺物である。

以上ように遺構はほぼ全域に広がっており、しかも試掘坑の85％が遺構に当るという濃密な分布を示している。

このため、再び関係機関と今後の取扱いについて協議を重ねた結果、地力増進事業については工事延期とし、来年度以降事前の発掘調査を実施することとなった（綿貫）。



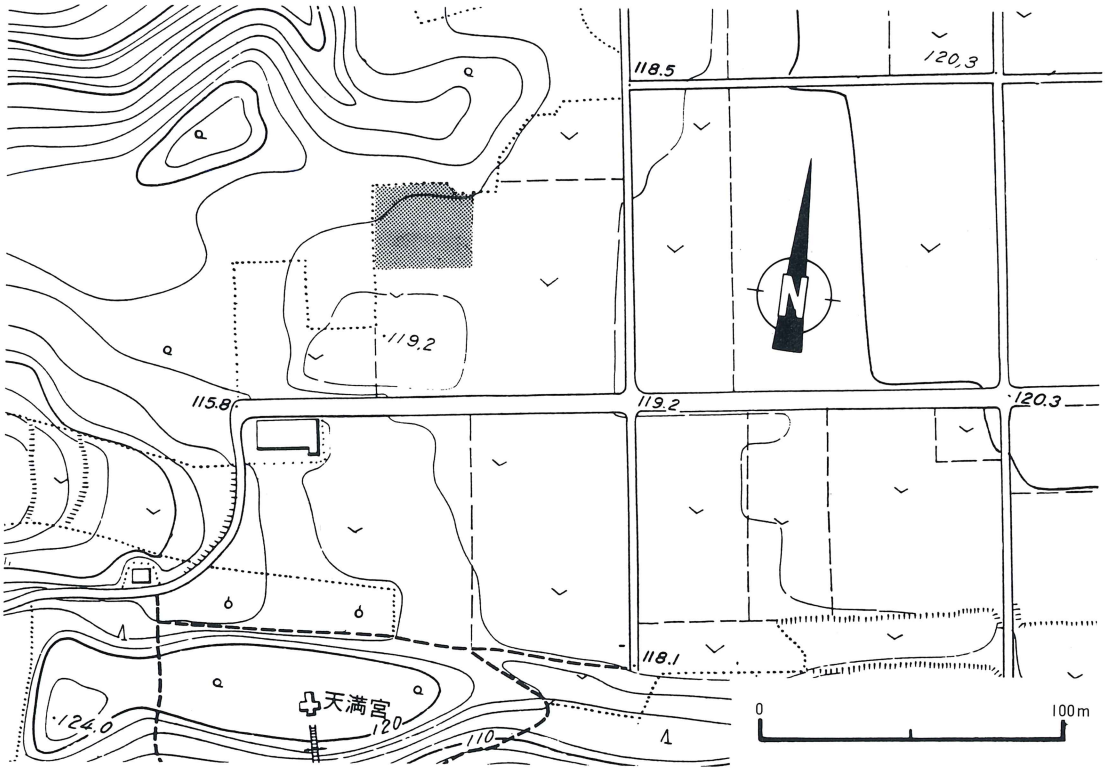
第18図　小迫原遺跡O地区遺構検出状況

11. 宮ノ原遺跡C地区（日田市大字朝日字宮ノ原）

当遺跡は、市内北西部の“山田原”と呼ばれる、日田盆地をみおろす台地上の西側先端に位置する。標高は120m前後を測り、周辺は宮ノ原遺跡として周知されている。当地点から約100m南方の台地の先端には、天満1号墳2号墳が位置する。谷を隔てた南東約1Kmの台地上には小迫原遺跡が、また同じく南方約7.0Kmの台地先端の北向き斜面上には、小迫古墳・小迫横穴墓群が位置する。

調査は、地力増進事業による土地改良に伴う事前調査として、実施したものである。調査の方法は、調査区内に南北方向に巾2m、長さ25mのトレンチを5本設定した。

試掘調査の結果、対象地区全体で耕作土内から多量の遺物の出土を見た。遺構は調査区中央寄りから南側にかけて、柱穴群・土坑等が確認された。調査区北側にかけては、遺物を多量に含んだ攪乱土層が堆積していた。さらに調査区全体に造成を受けた痕跡がみうけられた。これらのことから、当地区一帯は昭和40年代の畑地総合整備計画によって、相当数の遺構が改変を受けていることが判明した。（友岡）



第19図　朝日宮ノ原遺跡C地区調査地点位置図

12. 日高地区（日田市大字日高）

当地区の調査地点の地形は、市内南東部の標高180m前後の山々からなる谷状の裾部分で、斜面北側の立地条件としては良くない場所に位置している。標高は120m前後を測る。

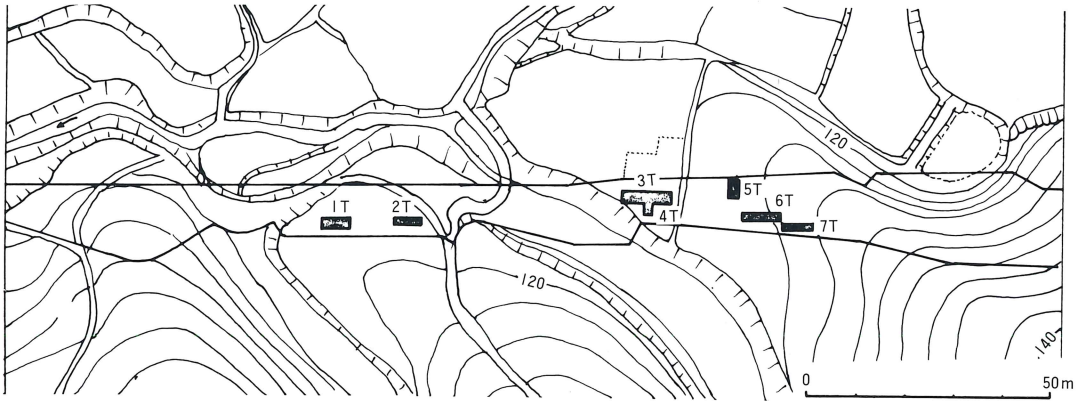
当地区周辺には、北西方向に東寺横穴墓群や東寺原遺跡、さらには装飾古墳として知られている法恩寺山古墳群が位置している。

調査は、天瀬町本城〜日田市有田を結ぶ県営日田地区広域営農団地農道整備事業に伴う事前調査として、昭和62年12月10日〜12日までの3日間試掘調査を実施したものである。調査地は樹木や地形の傾斜の関係から大きく制限されたが、平坦地および傾斜のゆるやかな地点を選び、巾1〜2m、長さ3〜10mのトレンチを7本設定した。発掘調査面積は66㎡であった。

調査の結果、周辺部では若干の土師器片や黒曜石は見られたものの遺構は検出できなかった。（友岡）

日高地区調査区遠景

第3トレンチ全景



第20図　日高地区試掘調査地点位置図

Ⅳ. ま と め

昭和62年度も広範囲にわたる農業基盤整備事業に対応し、詳細な分布調査と重点地区の試掘調査を実施した。その結果、いくつかの地区で重要な遺跡が確認され、ひきつづいて、その遺跡の取扱いについて関係機関と協議を行った。対象地は原則として地区除外、工法変更による現状保存の線で進めた。これによって多志田遺跡、横枕遺跡については、遺跡の主要部について保存することかできた。 また小迫辻原遺跡については 工期延期とし、 63 年度に本格的に対応するようにした。安心院恒松地区、横枕遺跡、日向塚遺跡については県農政部と市町村の経費負担による（第 5 項方式）発掘調査を実施した。このほか、県の分布調査の後、国東町が試掘調査を実施した羽田遺跡、重藤遺跡もそれぞれ本調査を実施し、注目すべき成果をあげている。また前年度に試掘調査を実施した天瀬町五馬大坪遺跡、犬飼町市ノ久保遺跡（高松遺跡の一部）についても本調査を実施した。

調査の内容面では、羽田遺跡は、 県内で珍しい 縄文時代前・ 後期の古砂丘に 営まれたもので、多量の姫島産黒曜石原石が出土している。原産地の姫島とは直線距離14Kmの指呼の間にあり、同期における重要な石器素材の生産・中継地と考えられる。以前同じく東国東郡武蔵町熊尾遺跡では弥生時代前〜中期のものが知られているが、母材の大きさも格段に大きく、黒曜石への依存度の違いを感じさせる。このほか、市ノ久保遺跡では後期旧石器時代の細石核、細石刃に伴って、局部磨製石斧、石皿等が出土しており、特筆すべき成果をあげている。また五馬大坪遺跡では、 後期旧石器時代の 特異なナイフ形石器を伴う 良好な石器組成が 扣握されたほか、弥生時代中・後期の地方色のつよい墓地群が集中的に調査されている。

このように、今年度は例年になく農業関連の発掘調査が多く、しかも大規模かつ重要な遺跡の発掘調査が相次いだ。63年度も同じような状況が予測されるが、早期に事前協議を実施し、遺跡についてはできるだけ現状保存できるよう、関係機関と調整をすすめていきたい。

（清水）

国東町羽田遺跡

天瀬町五馬大坪遺跡

昭和62年度
大分県内遺跡詳細分布調査概報　7

昭和63年3月31日

発　行　　大分県教育委員会
印　刷　　日の丸印刷株式会社